

自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての事業所のあり方については、今までの理念の上に「地域の中で共に支えあい、共に歩む」を基本として位置づけをし、地域に開かれた施設として取り組み、質の確保を目指している。	○	積極的に地域活動に参加し、地域のニーズを引き出し、支援していくことに努めている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やカンファレンスはもちろん、勤務終了時の報告の際にも日常業務を通じて理念を共有具体化できるよう管理者及び苑長と職員間で意見を出し合っている。また、その思いを基に2ヶ月に1回更新している標語をスタッフ全員で考え掲示している。	○	関わりや具体的なケアが理念の実践となっているのかという視点で掘り下げて検討していくこと。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や家族合同茶話会を通じ、利用者が行事や日常生活の中で地域とのふれあいを知らう。	○	運営推進会議及び茶話会の開催や家族の行事への参加を推進している。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の畑やお店に気軽に出かけ、お店や近所の人達とコミュニケーションをとっている。畑仕事を教えて頂いたり、お店の人と顔なじみになる等交流を深めている。	○	今まで築いてきたものを大切に、今後にお付き合いを発展させて行きたい。世間話や、情報交換のなかから親睦を深めて行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会や民生委員の方々と連絡しあってお祭り、花見、七夕まつり、もちつき、等に参加している。また、他地域からも声をかけて頂き、小学校の祭りに参加している。時には施設へお招きして、祭りや交流会などを行い行き来している。	○	学校、幼稚園、保育所等の行事に参加して子どもたちと交流の機会を多くし、地域活動に参加、交流を深めて行く。法人全体の行事にもお招きして交流の幅を広げ、地域に開かれた活動の場となって行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人として地域への取り組みは行っている。	○	事業所として、高齢者の暮らしに役立つことを話し合い取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を基本に、出来ている事出来ていない事を再確認し、取り組んでいる。また改善点も有効に活用している。	○	ホームの理念を忘れずスタッフ一人ひとりの考えを活かし、同じ気持ちを共有したケアを心がけている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者やご家族にホームでの生活や暮らしぶりを写真や広報誌、ビデオ上映などでわかり易く報告してる。また、利用者にも数名参加してもらい実際の声を聞いてもらい、率直な意見を出してもらえる様に取り組んでいる。	○	いろいろな意見が出やすい雰囲気作りに努めたい。いただいた意見をサービス向上に活かせる様して行く。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北保健福祉総合センター及び北区地域包括支援センターとは研修会の開催や、ケースの相談等連携は適宜行われている。	○	常に連携をとり地域のニーズを知り、地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう支えて行く。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域グループホーム勉強会や文献等で学習している。	○	制度を活用するケースが増えてくることが予測されるため理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内に身体拘束廃止、虐待防止委員を設置しており、勉強会を行い何が虐待となるのかマニュアル等を含めて委員一人ひとりに啓蒙を行っている。また、利用者の身体の変化もヒヤリハットや事故報告についても職員全体に開示し、検討した旨を全員に周知できる様工夫している。	○	高齢者虐待防止関連法についての研修、勉強会に参加し、虐待について個々の職員が具体的に理解し、防止に努める。スタッフがストレスをためない様な環境作りに努める。また、グループホームの勉強会等で取り上げ、具体的な例に出して周知できる環境を作っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	不安や疑問を尋ねるための時間や説明にはゆとりを持って行っていく。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	利用者の意見が日常生活の中で実現できる様に努め、また利用者が不満や苦情を言うことで、改善され生活の中に活かされるという実感が持てる様にする。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	金銭トラブルがないよう保管場所になどに気をつけている。出納帳を家族に確認サインをもらっている。お小遣いの用途などからも生活が伝わることもあり、使用した品目を説明しながら、家族との情報交換も行っている。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	家族会（茶話会）において家族だけの時間を作り、代表の方に意見を伝えてもらうようにする。また、運営推進会議でも意見を聞いていきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	今後もスタッフと意見交換を行い運営に反映させて行く。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	有効な調整となるようカンファレンスの持ち方も勉強して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみ職員によるケアを心がけているが、異動や離職がやむを得ない場合も引継ぎに努力をし継続したケアが行われるように配慮している。	○	引継ぎの期間に幅を持たせ、継続したケアが行われるようにする。また、事前や事後にきちんと挨拶する機会を持ち利用者の混乱を防ぐ。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員、非常勤職員ともに研修の機会を設けている。研修内容は報告する場（勉強会）で発表している。また、実習生を積極的に受け入れ、外部の新鮮な気付きを確保している。	○	研修報告書を開示し、閲覧を周知し、活かして行きたい。毎日が積み重ね、勉強であるという姿勢を忘れないで行く。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区においては北グループホーム会を作り、毎月1回会議を開催、情報交換、勉強会、事例研究、相互訪問、相互研修等行い活動を通じて事業所外の人材の意見や経験をケアに生かしている。	○	今後もさらに活発に活動し、グループホーム全体の質の向上と地域支援へと発展させて行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	苑長と職員また、職員同士なんでも言い合える雰囲気作りに努めている。勤務状況に応じ他ユニットに入ったたりなど行き詰らない様に配慮している。	○	働きやすい環境づくりを心がけ、利用者から受ける喜びや感動、感激を共有できるようにして行く。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月に1回勉強会を行っている。テーマごとに各自、自己学習しその報告、職員間での共有を図る。またそこで得たものを実際にどうケアに活かすかまで掘り下げて考え発表する事を目標としている。	○	職員個々の努力や実績個性を認めプライドを持って働けるようにして行きたい。勉強会、研修などは今行っているケアの確認、気付きなどにもつながり前向きに取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人からの訴えを傾聴し、受け止めるよう努めている。	○	初期に築く本人との信頼関係の重要性を理解している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の立場から物事を考え、不安や困っていることを具体化し、求めていることは何か理解に努めている。	○	本人だけでなく家族の立場での不安、求めていること迄をも視野に入れることはたやすいことではないが努力して行きたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性を見極め法人全体での支援を行っている。	○	緊急性を見極めた対応にも努めていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学に来て頂いたり、入居者の紹介や、部屋の案内など、家族と相談、協力してもらいながら、臨機応変に対応していく。	○	職員とのコミュニケーションや、雰囲気作りなど馴染んでもらうための試行錯誤に努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症や周辺症状の日内変動があってもその瞬間瞬間で本人から得られる喜びを受け入れ、尊厳をもった関わりをしていく。また、家族に近い関わりを持って、信頼関係が構築できる様努める。	○	本人の言動の奥にある想いを理解するように努め、お互いが支え合いながら穏やかに生活できる様になりたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフの声かけでは入浴しないが、奥様とではさっと入浴されるなど家族と共に支えていることを意識している。また、その意識を家族の方々にも感じて頂ける様、家族と本人の関わりも支援して行く。家族がお世話になっているという負い目を感じさせないように配慮して行く。	○	職員を大笑いさせてくれた○○さん語録を書きとめておき、それを家族に伝えまた大笑いするなど、職員が得たものを何らかの形で家族に伝えていく。生活するのは自宅ではないが家族の役割はここでも同じであることを伝えて行く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の関係が継続できるよう働きかけている。遠く離れたところに住む息子さんのことや娘さんのことを折にふれ伝える等努めている。手紙のやり取り等を積極的に行えるよう支援し、連絡が来ると近況等と共に返事を出すようにしている。	○	本人の気分の乗る時に勧める等、家族へ向けた支援が家族や本人の負担とならないような配慮もしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の情報を得て会話の中でその話題を提供したり、自宅近くを散歩の途中で近隣の方にあいさつをするなど馴染みの方とのふれあいを大切に持続できるように努めている。	○	持続できるよう努め、散発や買い物時等その利用者が地域と関わっていると実感してもらえるよう支援して行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	周辺症状の変化に対し、他の利用者が違和感をもってそれがその方の全てではないことをその都度話している。行動だけではなくあいさつやありがとうなどの言葉はきちんと伝え利用者同士が支えあっているという意識をもってもらうよう努めている。	○	「ありがとう」って言っていますよ、とわかり易いジェスチャーを加え、利用者同士の関係をより良くなるようにすることもある。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	少人数での関わりでの生活が本人にとって心地良いものであるかが疑問となり特養へ移行となったケースに対しても交流の場を設けている。また、ここでの馴染みの関係が持続できるような関わりに努めている。	○	馴染みの関係として時には懐かしく思えるような心の支えとなるよう入居中からの関わりを持つ。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉だけではなく、表情や仕草など気付いたことや、家族や関係者よりあつめた情報をスタッフ間で共有し、本人の思いを知るために把握、検討に努めている。	○	その時々によって変化する希望や意向をスタッフ間で検証し、検討して行きたい。また、結果が出た時は家族に伝え共に喜びを共有する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の思い出話や家族との会話の中から生活歴や習慣などの把握に努めている。	○	ここでの生活に取り入れることの出来るところに関しては積極的に取り入れていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	廊下を歩いているときや、居間にいるときなど様々な場面で何気ない会話をする中で心身状態を読み取り、現状把握に努めカンファレンスにもって行く。	○	ケース記録、事業日誌、連絡ノート等を活用し、日々の関わりの中で心身ともに変化を見逃さないよう努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの情報のみならず、日常の会話や行動及びスタッフの情報収集し、本人や家族の思いに沿って計画を作成している。また、家族の訪問時には近況を伝えると共にプランについても話し、確認を取っている。医療面は看護師と話し合う。何気ない家族の言葉から介護への想いを汲み取るようにしている。	○	必ずしも関係者が一堂に会することばかりではないので日頃より広く意見を集めるようにしている。今後さらに記録やモニタリングが次の介護計画へとつながる様に持って行く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの時期が来ていなくても、見直しの必要がある時は随時カンファレンスを行いモニタリングの結果、計画を見直すようにしている。	○	話し合う機会をすぐに設けるのが難しい場合もある。また、中々話す機会を持ちにくい家族もあるので機会を設けて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に詳しく記載されており、見直しにたいへん役立っている。	○	特に注意すべき店や、気になる行為等は、考察欄を活用して簡潔に見直しができる様に行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、受診や入院が適正かどうかの検討や早期退院の支援を行っている。	○	医療連携体制の充実により、内科、整形外科、歯科、精神科受診が可能である。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	出初式や学校の文化祭等に参加している。また、医学部学生の実習を受け入れ、利用者が健康面での相談をする機会となっている。地域の民生委員からは行事に招かれ顔なじみになっている。	○	もっと多くの協力機関を作って行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて対応や協力は行いたい。	○	必要が生じたら速やかに対応して行く。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	地域包括支援センターと協働することにより地域の状況把握に努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	今後も家族との連携を密にしたい。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	看護師は利用者の平素の状況の把握に努め、変化をキャッチするスタッフの声に耳を傾けて行くこと。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	医療機関から情報を得ながら早期退院ができるよう働きかけて行く。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	本人に「ここで過ごしたい」と言ってもらえる様なユニットを目指したい。重度化・終末期の支援について自己研鑽を積んで行きたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	それぞれが抱え込んでしまうことなく、チームで支えるという意識を持って取り組んで行く。チームみんなが優しい気持ちと暖かい心を伝える技術を最大限に発揮できるようにして行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	現在の取り組みをさらに充実したものとし、ダメージを防ぐ。前の施設ではどんな様子であったか？また住み替えの原因は何であったか？などの情報を得る。
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	人生の大先輩であるという意識を常に持ち、症状がその方の全てではないことを念頭に置き、受け止める心やその人らしく生きて行けるような支援をしたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	食えること、着ることはもちろん行きたいところ、したいこと等、自分で決める経験の積み重ねが毎日の生活となるようまた、普段していることが快適にでき、したいと思える様な環境づくりを支援をして行きたい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	今までの生活歴や個々の意志に基づいて価値観の違いやその人らしさが実現されるような支援をして行きたい。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	一人ひとりよく似合う服装や好みの色を日頃から知っておき、本人が着たい服などは形にこだわらないようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れたイチゴでジャムを作ったり、もやしの根取り、とうもろこしの皮むき、ごますり等その食材の変化を意識することで、食事の楽しみの一つとしている。また、まちに待った食事で「おいしいわ」の言葉が自然に出て、会話を楽しみ、皆で過ごす大切な時間となっている。	○	本人の食べる時間やリズムに合わせて食べられるようにし、食事をしようとする意欲や楽しみを尊重し、あまり手を出さずに介助や見守りなどを行い自立に向けた介助を心がけ、清潔で明るく楽しく食べられるような雰囲気作りを行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーもホットやアイスにしたり、温かい飲み物、湯気が出ない程度のものなど一人ひとりの好みに合わせている。それぞれの嗜好を遠慮せずに訴えることの出来る雰囲気を作っている。	○	ほしい時にほしい物を提供することを目指して行きたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗は本人の失敗ではなく、適切な誘導の失敗と捉え、尿、便意のサインを見逃さないよう注意を払っている。	○	羞恥心を考慮し、また、トイレで排泄できたときにみんなで大喜びできる雰囲気があり、気持ちよく排泄できるよう支援して行きたい。しかし、誘導の難しさを実感する場面も多々ある。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中は眠そうだから午後にしたり、他ユニットで入浴するのを見て「私も入浴したい」と言われる方に対して希望やタイミングを見計らった支援をしている。また、リズムや前準備など、個々に違った対応が職員全員でできる様にしている。週末限定の入浴剤は好評である。	○	希望やタイミングを見計らい、介助の必要な方の入浴は1対1の格別な素顔をのぞけるいい時間となっている。ふれあいや、個々の関わりのよい時間である。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	混乱し動き回った後の休息には居間のソファをベッド代わりにしたり、夜間急に覚醒し不安から来ると思われる落ち着きのないような時には付き添ったりしている。	○	眠いサインを見逃さず、入眠がスムーズに図れるよう支援して行きたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	メニューを見て食器の準備をしたり、スーパーの袋のしわをのばしたり、椅子を運ぶなどその利用者にとって合った役割をもっている。また、外出時のお弁当のおかずを決めたり、行事の資料を見て盛り上げる雰囲気作りをしている。時々1対1で苑外に出て1～2時間好きなように歩いて貰う事も行っている	○	画一的な楽しみ事ではなく一人ひとりに合わせたものを探して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方にも出しやすいようにお札を用意したり、お札に触れなくても「おいくらですか」など店員とのやりとりができるような橋渡しを行っている。また、本人の使いなれた財布を用意してもらい支払いの際には使用してもらおう事も考慮している。	○	お金に対し関心のない方でも新聞広告や雑誌などで会話を楽しんでいる。本人の出来る事の幅を職員で決めてしまわないように心がける。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や天候に応じて季節を感じる畑や公園、生活感のあふれるスーパーでの買い物、そして歩きつかれた時にふと立ち寄ったファーストフード店、などユニット全体での外出。それぞれの意義を考えながら戸外に出かける援助を行っている。外出表を作成し状況を解り易い様にしている。	○	季節のよいときにはもっと外出する機会を増やして行きたい。全体だけでなく個別に計画を立てて行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	貸し切りバスを利用しての遠足に出かけ、小旅行気分を味わっていただいている。また、決まったプランではなく現地では自由に行動してもらえるようにする。	○	希望を反映できる機会を増やして行きたい。貸し切りバスでの小旅行は今後も続けてゆきたいと思っている。また、家族参加も視野に入れた外出も企画して行きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	奥様やお子さんに電話をかけたり、ご姉妹に手紙を書いたりなど行っている。近くの郵便局まで手紙を出すのに付き添ったりしている。	○	文章のみならず写真や、広報誌なども同封し近状をお知らせする。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気持ちのよい挨拶を心がけ、ゆったり静かに過ごせるよう配慮し、時には本人と家族だけの場面を作るよう心がけている。	○	居心地のよい入りやすい雰囲気を作り出したい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束とは何かを常に考えながら日々関わりを行う。また、職員間で指摘しあえるような雰囲気作りにも心がけている。また委員会を設置し普段気付かない様な声掛けや、座り方にも気を配っている。	○	今後も勉強会や研修で身体拘束と虐待についての理解を深め確実なものとして行く。何気なく行っていることも、自分自身に置き換えて本当に良いかどうかを再度考慮してみる機会を作る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に出入りできるように日中は玄関のカギを開け自由な暮らしを支援している。夜間は施錠することで特養との防火扉となっている。	○	行きたいところへ行く自由さと安心をもってもらえるようにしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が自由に歩き回るのをそっと見守ったり、特養のスタッフに依頼するなど様子を把握しつつ自由に過ごせるよう配慮している。また、夜間の巡回や職員室のモニターで利用者の様子を把握するようにしている。	○	安全面とプライバシーの配慮、この二つを両立させるのは難しいケースもあるが不快な思いをさせないようにしたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗浄液等の危険なものは鍵のかかるところに保管している。夜間目の届かない時などには、立ち入らないよう時間を決めて施錠している。	○	食品の防腐剤、乾燥剤にも配慮している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書や事故報告書の検討や対策を職員同士で行い参加できなかったものに後日確認し確認印をすることで今後の防止に努めている。また、日々の申し送りやケース記録にも記入することで再確認を行っている。	○	事故があったときには速やかに対策を立て、他ユニット、特養の事故なども伝え合うことで事故の再発防止に努めて行きたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網、入浴時の急変時対応表、体調不良時のチェックポイントを置き活用するようにしている。勉強会で知識を学び実体験をすることで、より現場に対応できるようにしている。	○	職員が緊急時に落ち着いた対応ができるよう日頃から心がけるようにしたい。毎年、危険に対しての備えを増やして行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し定期的に消防署の協力を得て消防避難訓練を行っている。また、運営推進会議等で地域の方々に協力を得られるよう働きかけている。様々な訓練を行うことにより、どんな状況でも対応できるよう努める。	○	近隣住民の協力も得られるよう働きかける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクのない生活はないということを基準に利用者がよりその人らしく暮らしてゆけるような働きかけを行いその都度家族等に説明している。	○	家族が気兼ねなく訪問することで家族も共に支えているということとリスクの理解を深める。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	言葉だけではなく表情、歩行、排泄、食欲、声の大きさなど一つ一つの動作から体調の異変に早期に気付くよう努力し、速やかに連絡を取り合っている。	○	速やかな対応を心がけて行く。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報表を作成し、理解に努めており症状の変化があれば看護師に連絡している。	○	配薬時に名前と日付を確認し、誤薬のないようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が落ち着きのなさや、食欲低下につながることを理解し、防ぐために冷たい牛乳、ふかしいも、寒天、オリゴ糖、ヨーグルトなどの飲食物の工夫を行っている。	○	看護師と連携しながら薬の調整を図っている。便通を良くする食材なども取り入れている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	居間に各自のうがい用コップを用意している。自力で難しい人には毎食後ケアを行っている。また歯科衛生士の資格を持つ職員からケアのアドバイスももらっている。定期的に歯科医の往診がある。	○	物品を常に清潔に保てるようにして行きたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が献立を作成している。水分摂取量は表を作成し、個別の必要量を把握した上で1週間単位で状態が把握できるようにしている。	○	表は記入するだけにとどまらず有効活用する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗い、うがいの奨励や布団の乾燥、空気の入替えなどを行っている。また、感染症には予防マニュアルを活用している。	○	習慣的、継続的に行えるようにしたい。また予防と早期発見に努める。併設施設の感染症、発症状況を速やかに把握して持ち込まないようにしていく。また、職員の健康管理にも努めていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的な台所の消毒や冷蔵庫の清掃を行い衛生管理に努めている。保存している食材には日付を必ず記入している。また、食品衛生責任者からアドバイスを受けている。	○	現状を維持する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の植木や花を飾ることもあり、陵東館秀光苑の掲示板は最高年齢の方が書道教室で書いてこられたものである。	○	玄関は防火戸となっているが開放することでソファに座り日向ぼっこや談話をされる特養やショートステイの利用者の方もおられ、特養やショートステイの利用者の方々もご近所さんという捉え方をし、大切にお付き合いを重ねている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に漂う朝一番のお茶の香りで起きてこられた利用者を迎えるようにしている。午後の西日はすだれやカーテン、植木鉢でさえぎり、不快にならないように留意している。行事の写真は思い出話してから次はどうしましょうとの活力を生み炊事の音や御飯の炊ける匂いなどは「もうすぐ食事」と時間を忘れた利用者の五感に伝えてくれる。	○	さらに今後は入居者の個別の好みなども取り入れてより快適な空間を作って行きたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の隅に1人がけと2人がけのソファを置き、それぞれの利用者の居場所となっている。また、家族がこられた時は憩いの場になったりと活用されている。	○	ソファにはクッション等も置き、一休みもできるようにしている。サイドテーブルなども置けば飲み物が置けるので考慮したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	畳を用いたり、昔の写真や、結婚40周年の家族の 寄せ書き、かつての作品など思い思いの品が居室 に置くことにより利用者がホッと出来る空間にな るよう配慮している。	○	今後は家族の協力を得て本人の馴染みの物をもつ と沢山置けるようにしたい。また、一人ひとりの 動き慣れた動線（目線）が変わらない様に心がけ ている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	空気の入替えや室温管理は職員本位にならな いようにしている。排泄物において利用者が混乱 しないよう瞬時に消臭したいときは消臭スプレー を用いることもある。	○	常に室温等を気にしながら利用者が最適な温度を 保てるよう配慮する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	鏡に映る姿が怖いと感じる利用者のためカバーを することでトイレに入ることも洗面台で手を洗う ことも可能になった。	○	背丈の低い利用者へはその方に合ったテーブルを 用意している。椅子は足が床に付く高さにしてい る。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	黄色い椅子、桃色のティッシュの箱など混乱しな いような工夫をしている。一人ひとりの湯飲み、 茶碗を使用していて、この茶碗はご飯が小盛、こ れは大盛等区別できている。食事も自力で食べる ことができる様おにぎりにしたりと工夫して自分 で食べることが出来る力を少しでも長く継続して もらう。	○	トイレの場所が分からず階段、床で排尿する事が あっても、排尿動作ができる事、わかる事を認め てどうすれば良いのか個別に関わりながら対応し ていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	外回りは洗濯物を干す際に庭木を見たり、セミの 声を聞いたり、季節を感じる場所となっている。	○	安全にベランダに出れるようにし、外の空気に触 れる機会を増やしたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の一人ひとりの笑いや何気ない一言が他の方たちにも伝わって行き、最後は職員も交えたみんなで大笑いになり、そんな雰囲気を楽しんでいる。スタッフは利用者一人ひとりのどんな小さな出来事にも喜びや感動があり、お互いがお互いを支え合いながら日々過ごしている。居間には彩りが増えて緑の植木に水をやる仕事も利用者の役割の一つである。外出の際見かけた季節の花はペーパークラフトとなりそのときの写真と共に壁を飾る。写真の中のみんなの顔はとてもいい表情となってきている。居間のテーブルが食事の場面であり工房であったりとするが、利用者一人ひとりは様々な役割があり、それが上手く自然に動いているようでその中で居心地の良さが感じられる。公園や畑、散歩に出かけたときの近隣の人達との会話には地域への関わりが広がっている。